

Nara National Museum

奈良国立博物館

だより

第 **113** 号

令和2年 4・5・6月



模造 螺鈿紫檀五絃琵琶 背面部分（宮内庁正倉院事務所）

特別展

御大典記念 特別展
よみがえる正倉院宝物
一再現模造にみる天平の技—
4月18日(土)～6月14日(日)
東・西新館

4月18日以降も当面の間休館となります。
展示会の開幕日につきましては、決定次第、
当館ホームページ等でご案内いたします。

特別展(予告)

開館125年記念特別展
奈良国立博物館仏教美術名宝展(仮称)
7月18日(土)～9月22日(火・祝)
東・西新館

名品展

珠玉の仏たち
通期開催 なら仏像館
中国古代青銅器
通期開催 青銅器館

当面の間休館となります。再開日につ
きましては、決定次第、当館ホー
ムページ等でご案内いたします。

よみがえる正倉院宝物

―再現模造にみる天平の技―

4月18日(土)～6月14日(日)

4月18日以降も当面の間休館となります。
展示会の開幕日につきましては、決定次第、
当館ホームページ等でご案内いたします。

正倉院宝物とは、奈良・東大寺の倉であった正倉院正倉に伝えられた約九千件におよぶ宝物です。聖武天皇ゆかりの品をはじめ、その多くが奈良時代の作で、調度品・楽器・遊戯具^{ゆうぎぐ}・武器・文具、文房具、仏具、文書^{もんじょ}・染織品など、多彩な内容をもちます。中には、西域や唐からもたらされた、国際色豊かな品々も含まれます。

正倉院宝物の本格的な模造製作は、明治時代に奈良で開催された博覧会を機に始まりました。当初、模造製作は修理と一体の事業として取り組まれ、昭和四十七年(一九七二)からは、宝物の材料や技法、構造の忠実な再現に重点をおいた模造製作がおこなわれるようになります。以来、人間国宝ら伝統技術保持者の熟練の技と、最新の調査・研究成果との融合により、芸術性・学術性の高い優れた作品が数多く生み出されてきました。

本展は、天皇陛下御即位をはじめとする皇室の御慶事を記念し、これまで製作された数百点におよぶ正倉院宝物の再現模造作品の中から、選りすぐりの逸品を一堂に公開するものです。再現された天平の美と技に触れていただくとともに、日本の伝統技術を継承することの意義も感じてもらえますと幸いです。



模造 酔胡王面 (宮内庁正倉院事務所)



模造 赤地唐花文錦 (宮内庁正倉院事務所)



模造 螺鈿玉帯箱 (東京国立博物館)



模造 黄金瑠璃鈿背十二稜鏡 (宮内庁正倉院事務所)

開館125年記念特別展

奈良国立博物館 仏教美術名宝展(仮称)

7月18日(土)～9月22日(火・祝)

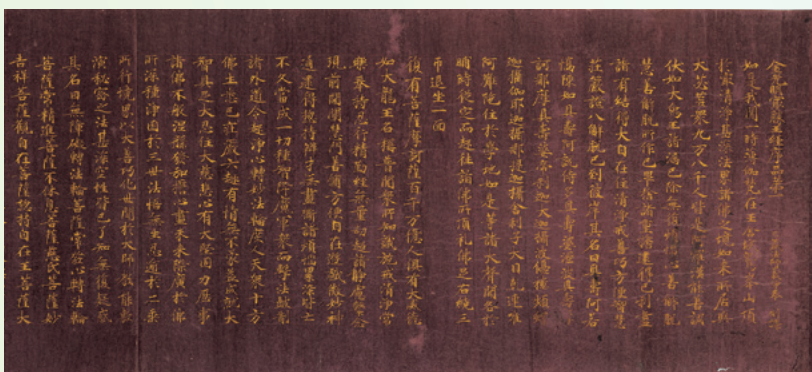
奈良国立博物館は、明治二十八年(二八九五)にわが国二番目の国立博物館として開館し、本年で一二五年を迎えます。本展はこれを記念し、仏像・仏画・古写経をはじめとする館蔵の優品の数々を通じて、日本仏教美術一四〇〇年の歴史を紹介するものです。奈良博物館コレクションの魅力をご堪能下さい。



国宝 十一面觀音画像(正院)



国宝 薬師如来坐像(当館)



国宝 金光明最勝王經 巻第一(当館)

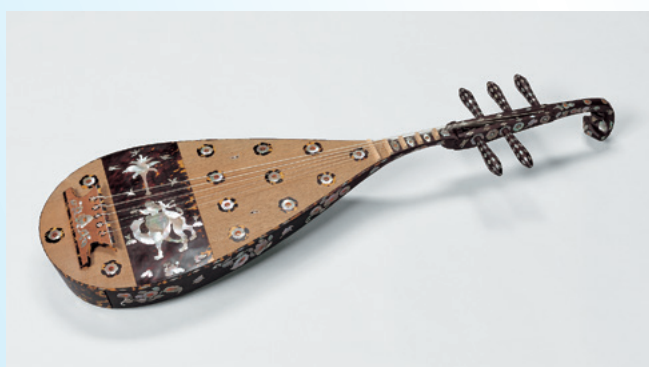
〔表紙解説〕

模造 螺鈿紫檀五絃琵琶

全長一〇八・〇cm 最大幅三〇・九cm
製作年度 平成二十三年(二〇一一)～一八
宮内庁正倉院事務所

正倉院北倉に伝わる、光明皇后が東大寺大仏に献納した聖武天皇遺愛の琵琶の模造。原宝物は紫檀材を主材料とし、全面に夜光貝による螺鈿と玳瑁(ウミガメの甲羅)で華麗な装飾が施される。正倉院宝物を代表する優品の一つである。

模造の製作においては、螺鈿・木工・絵画など多分野にわたる工芸家が連携し、形状や装飾のみならず、実際に演奏可能な楽器としての再現が目指された。完成までに八年、材の入手から数えると一五年もの長い年月を経て、ついに二五〇年前の絢爛な姿と豊かな音色がよみがえった。



中川 あや
(当館学芸部列品室長)

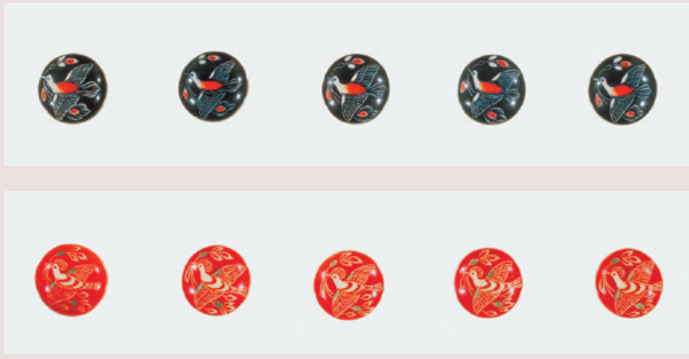
◆御大典記念 特別展
「よみがえる正倉院宝物
—再現模造にみる天平の技—」
にて展示

執念の人

―象牙彫刻家・村松親月の挑戦

当館学芸部工芸考古室長 清水 健

群馬県太田市在住の村松藤男氏(雅号・親月、太田市重要無形文化財「撥鏤」保持者)は、戦後多年にわたって在野で活躍してきた象牙彫刻家である。氏は、昭和九年(一九三四)、東京・深川で象牙彫刻家の村松万次郎(雅号・光玉)の四男として生を享け、後に父に弟子入りして、象牙彫刻の技を身に付けた。主に人物彫刻や帯留、根付などを制作し、作品は根付のコレクターとして知られる故高円宮憲仁親王殿下(一九五四〜二〇〇二)・久子妃殿下(一九五三〜)のコレクションにも収められている。



紺牙撥鏤菓子・紅牙撥鏤菓子模造 当館蔵(平成10年、村松親月氏寄贈)

氏は壮年期から、染めた象牙の表面に文様を彫り表す撥鏤の技法に魅了され、数十年にわたってその復元に取り組んできた。正倉院宝物には多く見られるものの、後年工芸史上から姿を消した撥鏤技法は、殖産興業などを目的として明治時代の初めに開催された奈良博覧会の落とした子である「奈良漆器」の生産を担った温古社の工場長を務め、正倉院宝物の模造なども手掛けた吉田立齋(一八六七〜一九三五)が復興し、子で後年重要無形文化財「撥鏤」の保持者(人間国宝)に認定された吉田文之氏(一九一五〜二〇〇四)が継承していたが、文之氏は技法の詳細を決して明らかにしなかったため、未だに謎に包まれたままとなっている。

村松氏は、独力で撥鏤技法の復元に着手し、多くの実験を重ね、長い年月をかけて、象牙を青く染めた正倉院宝物にいうところの紺牙(緑牙)は藍(インド藍)に茜(インド茜)を重ね

染めたもの、象牙を赤く染めた紅牙は茜(インド茜)を用いるのが最適との結論に行き着いた。氏は平成八年(一九九六)に渋谷区立松濤美術館で開催された特別展「日本の象牙美術―明治の象牙彫刻を中心に―」に際して同館より依頼を受け、写真や展示での鑑賞体験を元に正倉院宝物の模造を制作し、制作過程を示す見本とともに出品した後、それらを平成十年(一九九八)度に当館に寄贈した(紅牙撥鏤尺模造、緑牙撥鏤尺模造、紅牙撥鏤撥模造、紅牙撥鏤菓子模造(写真)、紺牙撥鏤菓子模造(写真)等)。また、平成二十一年(二〇〇九)度にも、紅牙撥鏤尺模造を制作見本とともに寄贈している。これらには、詳しい実験データが付されており、色料や染付時間、染付温度の違いによってどのような結果がもたらされるかが明瞭にわかる点は大変貴重である。また、追試も可能であり、本来多くの職人が秘匿するような情報が惜しげもなく示されていることは撥鏤制作技法の解明を大いに前進させるものであるといつてよいであろう。

ところが、近年飛躍的に進展を遂げる自然科学的手法による調査によって、平成二十五年(二〇一三)以降、正倉院宝物の紅牙撥鏤尺(中倉五一第一、四号)、紅牙撥鏤菓子(北倉二五)などの紅牙製品は、臘脂(ラック)で染色されていることが明らかにされた。村松氏は、この結果を受け、臘脂は象牙に深く浸透しないとの実験結果が得られていたこととの矛盾を埋めるべく新たに実験を重ね、正倉院宝物の紅牙は茜の上に臘脂を重ね染めたものであり、可視分光分析による調査結果は表面の臘脂に反応したものと独自に結論付けた。そして、新たな染色法による模造を作成し、制作見本、実験データとともに、平成二十七年(二〇一五)度(紅牙撥鏤尺模造)、平成三十年(二〇一八)度(紅牙撥鏤撥模造)の二度にわたって寄贈した。

村松氏の導き出した結論の当否については今後の研究が俟たれるが、齢八十歳を迎えてもなお、新たな事実と向き合い、これを受けて独力で謎を解き明かそうと検証実験に取り組む氏の姿には、撥鏤に取り憑かれ、この不可思議な技法の解明に生涯を捧げようという氏の執念が表れている。氏の古代の技への挑戦が果たして正解であったかについては、宝物と同様に千三百年に及ぶ時が流れた後に、明らかにされるのかもしれない。

◆村松氏の寄贈品の一部(写真)は、御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」にて展示。

出陳一覽

名品展

なら仏像館

当面の間休館となります。再開日につきましては、決定次第、当館ホームページ等で案内いたします。

令和2年 4月14日(火)

彫刻

〔第1室〕

- 如来立像 当館
- 藏王権現立像 当館
- 如来立像 当館
- 地藏菩薩立像 当館
- 阿弥陀如来立像(裸形) 当館
- ◎狛犬 当館

〔特別公開〕

◎十一面観音菩薩立像 大智寺

〔第2室〕

- ◎舞楽面 新鳥蘇 春日大社
- ◎菩薩面 浄土寺
- 二天王立像 室生寺

〔第3室〕

- 宝冠阿弥陀如来坐像 安楽寿院
- 阿弥陀如来坐像 当館
- 阿弥陀如来坐像 金剛寺
- 阿弥陀如来立像 当館
- 阿弥陀如来立像 個人
- 阿弥陀如来立像 個人

〔第4室〕

- 方形独尊坐像博仏 当館
- 火頭形三尊博仏(奈良県橘寺出土) 当館
- 六角形博仏(三重県天華寺出土) 当館
- 塑像断片(迦楼羅頭部ほか) 当館
- (奈良県川原寺裏山遺跡出土) 明日香村教育委員会
- 塑像断片(菩薩頭部) 当館

〔第5室〕

- ◎誕生釈迦仏立像 正眼寺
- 誕生釈迦仏立像 個人
- 誕生釈迦仏立像 当館
- 誕生釈迦仏立像 当館
- 観音菩薩立像 法徳寺
- 菩薩立像 法起寺
- 菩薩立像 興福院
- 菩薩半跏像 神野寺
- ◎観音菩薩立像 法隆寺
- ◎観音菩薩立像 観心寺
- ◎観音菩薩立像 金剛寺
- 如来坐像 当館
- 誕生釈迦仏立像 個人
- 二仏並坐像 当館
- 菩薩立像 個人
- 十一面観音菩薩立像 個人
- 力士立像 個人
- 如来立像 光明寺
- 釈迦如来坐像 園城寺
- ◎藏王権現立像 薬師寺
- 誕生釈迦仏立像 当館
- 不動明王立像 当館
- 勢至菩薩立像 当館

(奈良県定林寺出土) 当館
塑像断片(天部・僧形像ほか) (滋賀県雪野寺出土)

〔特別公開〕

◎文殊菩薩騎獅像 大智寺

〔第7室〕

- ◎十一面観音菩薩立像 元興寺
- ◎光背(二月堂本尊所用) 東大寺
- ◎十一面観音菩薩立像 勝林寺
- ◎十一面観音菩薩立像 新薬師寺
- ◎十一面観音菩薩立像 当館
- ◎観音菩薩立像 勝林寺
- ◎観音菩薩立像 文化庁

〔第8室〕

- ◎宝冠阿弥陀如来坐像 當麻寺
- 大日如来坐像 十市町自治会
- ◎梵天立像 秋篠寺
- ◎救脱菩薩立像 秋篠寺
- 天部形立像 兵庫県
- 天部形立像 十市町自治会

〔第9室〕

- ◎龍猛菩薩立像 泰雲院
- 地藏菩薩立像 十市町自治会
- ◎明星菩薩立像 弘仁寺
- ◎地藏菩薩立像 大福寺
- ◎地藏菩薩立像 新薬師寺
- ◎地藏菩薩立像 法徳寺

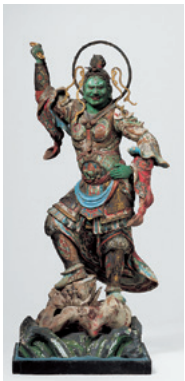
〔第10室〕

- 不動明王立像 正智院
- 大威徳明王騎牛像 妙法院
- 不動明王立像 当館
- 愛染明王坐像 当館
- 不動明王立像 個人

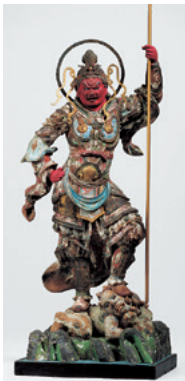
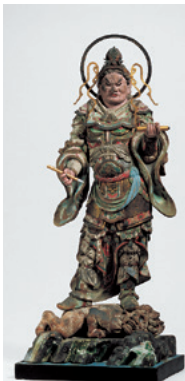
〔第11室〕

- 伽藍神立像 大慈仙町自治会
- 薬師如来坐像 当館
- 光背 当館
- 光背 個人
- 光背 当館
- 南無仏太子立像 当館

◎四天王立像



海住山寺



持国天立像・増長天立像 法徳寺 個人

〔第12室〕

- ◎阿弥陀如来立像 西法寺
- 如来立像 個人
- ◎増長天立像 称名寺
- ◎増長天立像 法明寺
- 天部形立像 法明寺
- 天部形立像 当館

〔第13室〕

- 如来倚像(押出仏) 当館
- 観音菩薩立像(押出仏) 当館
- 如意輪観音菩薩坐像 当館
- 地藏菩薩立像 当館
- 菩薩立像 個人
- 金剛童子立像 当館
- ◎藏王権現立像(五軀) 大峯山寺
- 破損仏像残欠コレクション 当館

名品展

中国古代青銅器(坂本コレクション)

青銅器館

当面の間休館となります。再開日につきましては、決定次第、当館ホームページ等で案内いたします。

中国古代の商(殷)から漢代に製作された青銅器の逸品を展示しています。

※◎Ⅰ国宝、◎Ⅱ重要文化財

※展示品は都合により一部変更する場合があります。

◆キャンパスメンバーズ

令和2年3月31日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。
 大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、大阪大谷大学、関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部・関西学院千里国際高等部・関西学院大阪インターナショナル、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学・京都教育大学附属高等学校、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学 (以上、五十音順)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すべての展覧会・講座・イベントについて、入場制限、期日変更、中止の可能性があります。本紙の内容は、4月7日現在のものです。今後も状況により変更の可能性があります。その場合には当館ホームページ等で随時詳細をご案内いたします。

ご了承のほどお願い申し上げます。

❖ 公開講座 ❖

◆御大典記念 特別展

「よみがえる正倉院宝物—再現模造にみる天平の技—」

4月25日(土) 「螺鈿紫檀五絃琵琶の再現模造製作について

—螺鈿加飾を中心に—

北村 繁 氏(漆工芸家)

5月16日(土) 「近代における正倉院宝物と奈良の工芸」

三本 周作(当館学芸部研究員)

5月30日(土) 「正倉院事務所の模造事業について

—近年の事例から—

山片 唯華子 氏(宮内庁正倉院事務所調査室主任研究官)

【時 間】 13:30～15:00(13:00開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 各回194名(先着順)

※聴講無料(聴講には入場整理券が必要です)

※当日12:00から講堂前にて、入場整理券(お1人様につき1枚)を配布します。

※入場整理券の受取の際には、特別展の観覧券(半券可。または奈良博プレミアムカード等)をご提示ください。

※入場受付は講座開始後30分で終了いたします。

↑上記公開講座は中止となりました。

◆奈良国立博物館賛助会

令和2年3月31日現在、特別支援会員4団体、特別会員4団体、一般会員(団体)18団体、一般会員(個人)76名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社、結の会、
(株)葉風泰夢、桃谷樓

〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、
(株)ライブアートブックス、(株)ゴードー

〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、(株)伏見工芸、
(株)木下家具製作所、(株)天理時報社、(株)きんでん奈良支店、
ノブレスグループ、奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、校倉な会、
(株)南都銀行、小山(株)、医療法人社団成風会、金剛(株)、(有)志津香、
茶道裏千家淡交会奈良支部

❖ イベント情報 ❖

■春季仏像供養

なら仏像館にて執り行われる、東大寺による仏像供養の法要です。展示室が普段とは違った雰囲気になります。

【日 時】 4月23日(木) 10:00～11:00

【場 所】 なら仏像館展示室

【料 金】 無料(ただし、なら仏像館への入館が必要です。)

■復元楽器による雅楽コンサート

復元された日本の伝統楽器による雅楽演奏を行います。正倉院宝物の中でもとりわけ著名な楽器類の再現模造が展示される、御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物」とリンクさせることで、天平の音楽について「楽器」「音色」の両面から立体的に理解を深めることができ、日本の伝統音楽に一層親しんでいただけるイベントです。

【日 時】 5月5日(火・祝)

【演 者】 一般社団法人 伶楽舎

【場 所】 当館講堂等

【料 金】 無料

※詳細は決定次第ホームページ等で告知いたします。

■御大典記念 特別展「よみがえる正倉院宝物—再現模造にみる天平の技—」関連ワークショップ

「正倉院文様箱を作ろう!—緑地彩絵箱の彩色体験—」

本展覧会に展示される「緑地彩絵箱」をイメージした箱に彩色をする体験型イベントです。正倉院文様に親しみながら自由に彩色を楽しむことができます。完成した箱はお持ち帰りいただけます。

【日 時】 5月23日(土)

①10:00～ 親子向け ②13:30～ 大人向け

【講 師】 奈良公園*春日野窯 中野則子氏

【場 所】 地下回廊

【料 金】 無料

※詳細は決定次第ホームページ等で告知いたします。

↑上記イベントは中止となりました。

❖ 奈良国立博物館観覧料金の改定について ❖

当館は、昨年10月に、全ての来館者が快適な鑑賞環境の下で豊かな文化的体験ができる博物館を目指し、来館者サービスの充実を主な内容とする「令和まほろばプラン」を発表しました。現在、当館では、同プランに基づき、展示解説の充実(多言語対応を含む)、多言語観賞ガイドアプリの開発、高精細な映像等を活用した展示の拡大、通年開放を目指した庭園の整備など、様々な改革に着手及び検討を開始しています。

一方、同プランでは、こうした改革プランを強力に推進しつつ、貴重なコレクションを次代の国民と世界の人々に確実に継承できる財務基盤を整備するため、「基本料金の引き上げなど、入館料の見直しを検討」することも、あわせて表明しました。その後、館内で慎重に検討を進めた結果、平成18年以来約14年ぶりとなる観覧料金の全面的な見直しを行い、本年4月1日に右記の通り改定を行いました。ご理解のほどお願い申し上げます。

	改定後(令和2年4月1日以降)	改定前
一般(個人)	700円	520円
大学生(個人)	350円	260円
シニア(満70歳以上)	無 料	無 料
高校生以下(および満18歳未満)	無 料	無 料
一般(団体)	廃 止	410円
大学生(団体)	廃 止	210円

※年会費をいただいている各種会員制度については、利用者への周知期間を十分に確保する必要がありますので、1年後の令和3年4月を目途に新料金に移行することとし、その内容は追って発表いたします。

■「奈良国立博物館と仏教美術—コレクションと研究—」

今夏、当館では特別展「奈良国立博物館仏教美術名宝展」(仮称)を開催いたします。当館所蔵の優品を通じて日本仏教美術1400年の歴史を振りかえる本展覧会に関連して、今回の夏季講座では奈良国立博物館仏教美術コレクションの魅力を担当研究員が解説するとともに、今春開催の特別展「毘沙門天一北方鎮護のカミ」で得られた最新の研究成果も紹介します。

【開催日】 8月19日(水)～21日(金)
 【主催】 奈良国立博物館
 【会場】 奈良女子大学講堂
 (近鉄奈良駅から徒歩約10分)

↑上記夏季講座の募集、スケジュール等の詳細は、後日改めて当館ホームページ、チラシ等で案内いたします。

庭園を散策しませんか

【日程】 4月18日(土)～6月14日(日) (休館日を除く)
 【料金】 無料 (ただし、当日の特別展入場者の方に限ります)

当館の隠れた名所、茶室「八窓庵」をとりまく庭園を公開いたします。(雨天や庭のコンディションが悪く入園できない場合は西新館ピロティからご覧いただけます。)



※事前の申し込みは不要です。西新館1階のピロティから入園できます。

※**展覧会の開会中のみ**の公開となります。
 詳しくは、**当館ホームページ**をご覧ください。

◆「奈良博プレミアムカード」
 「国立博物館メンバーズパス」のご案内

当館を今まで以上に楽しみいただける「奈良博プレミアムカード」「国立博物館メンバーズパス」を販売しております。

詳しい情報は、当館ホームページをご覧ください。か、当館観覧券売場へお問い合わせください。



美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

■4月19日(日) 「描かれた東大寺大仏の姿」

萩谷 みどり(当館学芸部研究員)

たび重なる兵火に遭いながらも復興を遂げ、今日も奈良の地に坐す東大寺の大仏。その姿はさまざまな絵画のなかにも表されてきました。描かれた東大寺大仏の姿から見えてくることについて考えてみたいと思います。

■5月17日(日) 「奈良国立博物館所蔵の古写真にみる

奈良公園周辺の景観」

野尻 忠(当館学芸部資料室長)

当館が保管する明治～昭和期の古写真の中には、仏像をはじめとする文化財だけでなく、人物や自然景観を撮影したものもあります。今回は奈良公園とその周辺で撮影された古写真を、現在の景観とともに紹介します。

↑上記サンデートークは中止となりました。

■6月21日(日) 「売立目録と仏像研究」

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

明治時代末から昭和時代にかけて作成された売立目録は、美術作品の伝来や流通を考えるうえで重要です。仏像研究における売立目録の有用性について、近年の調査成果をふまえてお話しします。

■7月19日(日) 「文化財を科学するⅦ」

鳥越 俊行(当館学芸部保存修理指導室長)

絵画や彫刻など多くの文化財は彩色(着色)されています。今回は彩色材料を調べる方法とその彩色材料についてお話ししたいと思います。

■8月30日(日) 「災害から文化財を守る

—文化財防災ネットワーク推進事業の取り組み—

佐藤 稜介(当館学芸部研究員)

わたしたち国立文化財機構では、大規模災害に備えて「文化財防災ネットワーク推進事業」を進めています。平時と災害発生時、それぞれで行われている、文化財を未来に伝えるための活動についてお話しします。

■9月20日(日) 「仏教絵画のきほん 表現様式を中心に」

北澤 菜月(当館学芸部主任研究員)

館蔵・寄託品を中心とした仏教絵画を見ながら、仏画の表現様式について勉強します。

【時間】 各回とも14:00～15:30 (13:30開場)

【会場】 当館講堂

【定員】 各回194名(先着順)

※聴講無料(聴講には入場整理券が必要です)

※当日12:30から講堂前にて、入場整理券(お1人様につき1枚)を配布します。

※入場受付はトーク開始後30分で終了いたします。

展示品の
みどころ

も ぞう きんぎんかざりのおうとう
模造 金銀荘横刀



木製 黒漆塗・金銀平脱(鞘) 鞘長39.1cm 明治8年(1875)
銅製・鍍金(金具) 把長14.9cm 奈良博覧会社製作
鉄製 鍛造(刀身) 刃長35.2cm 当館

「金銀荘」の名のとおり、漆黒の地に金銀の文様が映える高貴な趣の刀である。

本品は、正倉院宝物の金銀荘横刀を模造した作品。明治8年(1875)、奈良博覧会への宝物出品を機に、奈良博覧会社の付属事業として製作された宝物の模造の1つである。この事業では在地の工芸家を中心に製作が行われた。

宝物は、華やかな装飾から儀式用の刀と考えられるものだが、本品でもその最大の特徴である装飾の再現に意が尽くされる。鞘は木製黒漆塗で、瑞花や飛雲、霊獣の姿を金銀の鮮やかな対比をもって表す。これは、文様の形に切った金と銀の薄板を漆で塗りこめたのち文様部分の漆を剥ぎ取る「平脱」の技法によっている。葉脈や獣毛にも細かい毛彫が施され、個々の文様が生き生きと引き立つ。鞘の要所を飾る金具はいずれも金銅製で、これも魚々子地に唐草文を線刻した華やかなものである。贅を凝らした宝物の魅力を十二分に伝える優れた模造作品で、製作に当たった工芸家の手腕のほどがうかがえる。

三本 周作(当館学芸部研究員)

◆御大典記念 特別展「よみがえる正倉院宝物
-再現模造にみる天平の技-」にて展示

もんじゅ ほ さつ き し ぞう
文殊菩薩騎獅像



重要文化財
木造 彩色・截金
像高(坐高)66.2cm
鎌倉時代(14世紀)
京都 大智寺

元徳二年(1330)の奥書をもつ『橋柱寺縁起』によれば、奈良時代に行基が木津川に架けた泉大橋は、正応元年(1288)の大雨と大風でほとんど落ちてしまった。このとき西大寺僧慈心(真)の勧めで信

心ある者が、一本だけ残った行基建立時の橋柱をまつり、のちにこの橋柱を本尊の御衣木(仏像を造るための木)にして、文保二年(1318)に橋柱寺(現在の大智寺)が供養されたという。

『縁起』に本尊の制作時期は記されず、実際に橋柱を御衣木としたかも不明だが、本像は『縁起』にいう橋柱寺本尊にあたると思われる。作風も鎌倉時代末のものとして矛盾しない(獅子座は後補)。左手に蓮茎、右手に剣を執り、左足を垂下する姿は、東大寺の鎌倉復興を指揮した勸進僧・重源が快慶に制作させた奈良・安倍文殊院像に近く、やや角張った面相や上半身に着ける衣の形式、衣縁を波打たせる表現まで共通する。

安倍文殊院像に象徴される南都の文殊信仰は、勸進僧の大先達で文殊菩薩の化身とされた行基に対する信仰とも重なりながら、以後、叡尊や忍性ら西大寺を拠点とする律僧により担われていった。本像造立の背景にも、慈真の行基・文殊信仰があるのだろう。近時のX線CTスキャン調査により、像内に厨子入り文殊菩薩小像や卷子など多数の納入品が確認された。

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

◆名品展「珠玉の仏たち」にて展示

開館日時(4月~6月)

■開館時間 / 午前9時30分~午後5時

■開館時間延長日 /

〈名品展〉金・土曜日は午後8時まで
〈御大典記念 特別展「よみがえる正倉院宝物
-再現模造にみる天平の技-」〉
金曜日は午後7時まで
※いずれも、入館は閉館の30分前まで

■休館日 / 毎週月曜日

※ただし5月4日(月・祝)は開館

★無料観覧日(名品展のみ) / 5月19日(祝)
(国際博物館の日が休館日のためその翌日)

■観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生
個人(当日)	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料です。

※開館時間延長日の午後5時以降に観覧される方は一般100円引き、大学生50円引きとします(レイト割引)。

※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は一般100円引き、大学生50円引きとします(親子割引)。

■観覧料金 特別展「よみがえる正倉院宝物」

	一般	高校・大学生	小・中学生
個人(当日)	1,500円	1,000円	500円
団体・前売	1,300円	800円	300円

※団体は20名以上です。

※前売券の販売は4月17日(金)までです(前売券は当館観覧券売場のほか、各種プレイガイド等で販売します。詳しくは展覧会チラシ、ホームページ等をご確認ください)。

※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は当日券が400円、教職員の方は当日券が団体料金となります。

※この料金で、名品展(なら仏像館・青銅器館)も観覧できます。



●バス停

[交通案内]近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。